

アトピー性皮膚炎

当院ではアトピー性皮膚炎の診療を行なっています。皮膚の様子がなかなか良くならない場合には、スキンケア外来にご相談ください。体の洗い方、外用薬の塗り方など、お困りのことに対応いたします。スキンケア外来を希望する場合には、午前の小児科外来に初回受診をお願いします。

●アトピー性皮膚炎とは

アトピー性皮膚炎は強いかゆみを伴う皮膚の病気で、症状が良くなったり悪くなったりを繰り返すことが特徴です。アレルギーの病気を発症しやすい体質のことをアトピー素因と呼び、アトピー性皮膚炎の多くの患者さんがアトピー素因を持つとされています。

●アトピー性皮膚炎の原因はなに？

アトピー性皮膚炎の皮膚は皮脂膜の減少、角質が粗い、保湿力の低下などにより、乾燥しやすく、外部からの刺激を受けやすい状態にあります。アトピー素因を持つことが多いため、アレルギーを起こす原因物質に皮膚が接触することでアレルギー反応が起こります。アレルギーを起こす原因物質としてはダニ、ハウスダスト、カビ、花粉、食物などがあります。それ以外の刺激として、汗、衣類、洗剤や化粧品、細菌や真菌といった微生物が挙げられ、年長児ではストレスが影響することもあります。

●よくみられる症状

かゆみを伴う湿疹が良くなったり、悪くなったりを繰り返します。年齢によってかゆみを生じやすい部位に特徴があります。

乳児期：頬、あご、くびを中心におでこや頭部からはじまり、顔を服や布団に擦り付ける様子がみられます。徐々に手足の関節の内側などに広がっていきます。

幼児期・学童期：全身の皮膚乾燥が目立ち、ひじやひざの内側に掻いた痕がみられます。

●アトピー性皮膚炎の治療

治療には（1）原因・悪化因子対策（2）スキンケア（3）薬物療法の3本の柱があります。

（1）原因・悪化因子対策

年齢やお子さん、環境によって原因・悪化因子は異なります。ダニ、ハウスダスト、ペットなどが要因となっている場合は環境調整が大切です。食物アレルギーが関与する場合には、その除去が有効なこともあります。過剰な除去を避けるために保護者さまのみの判断ではなく、医師にご相談ください。

（2）スキンケア

皮膚を清潔に保ち、保湿につとめることが重要です。積極的に保湿を行うことで、アレルギー物質と皮膚との接触を防ぎ、喘息や食物アレルギーなど他のアレルギー連鎖につながってしまうことを予防します。

（3）薬物療法

保湿剤やステロイドなどの外用薬を使用し、皮膚の炎症を抑えることが大切です。当院ではアトピー性皮膚炎ガイドラインに沿って、皮膚病変の程度に応じた治療を行なっています。今までの治療で改善しない場合に、近年生物学的製剤の点滴や内服薬が開発され、小児の患者さんへの適応も増えてきています。当科でも導入を行っており、今までの治療で改善がない場合にはご相談ください。

●スキンケア指導外来について

当院では個別のスキンケア指導を行なっています。外用薬の塗り方、塗る量、範囲などの心配ごとに対応し、それまで皮膚ケアで困っていたお子さんやご家族が、ご自宅で適切な皮膚ケアができるようになっています。スキンケア指導を希望する場合には、午前の小児科外来に初回受診をお願いします。

●プロアクティブ療法について

アトピー性皮膚炎の外用療法には、症状が出た時に治療する「リアクティブ療法」と、症状が出る前から予防的に治療する「プロアクティブ療法」の2種類があります。アトピー性皮膚炎では再発が多く、現在はプロアクティブ療法が推奨されるようになってきております。1日1-2回のステロイド外用を症状が改善するまで継続し、十分に良くなった時点で1日おき、2-3日おきと徐々に減らしていきます。皮膚がきれいになった時点ですぐにステロイド外用を完全にやめてしまうのではなく、目に見えない炎症を落ち着かせながら、徐々に保湿剤をメインに移行していきます。治療方法や減量の仕方など、気になることがあれば小児科外来でご相談ください。